令和６年度　　徳 島 市 富 田 小 学 校 総 括 評 価 表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	
確かな学力 「かしこく（知）」	①思い・考えを伝える表現力 ②最後まで話を聞く態度 ③自ら学び、考える力の育成 ④基礎基本の学力の定着 ⑤家庭学習の習慣化「手引き」 ［学力向上推進委員会］	評価指数 ①思考力・表現力の育成に取り組んでいるが85%以上 ②先生や友達の話をよく聞いているが85%以上 ③自ら学ぼうとする態度の育成85%以上 ④分かる授業に取り組んでいるが85%以上 ⑤宿題がおおむねできているが85%以上 活動計画 ①②ノート指導を充実し、書く活動を活発に行い、自分の考えをもてるようにする。またＩＣＴを効果的に使い、話合い活動を充実し、友達の意見をよく聞き、自分の考えを分かりやすく伝える活動を積極的に行う。 ③児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。 ④教材教具や板書、発問などを工夫し、「分かる授業」を行う。 ⑤家庭学習を充実させるとともに、家庭学習の手引きを工夫し、家庭との連携を図る。	評価指数の達成度 ①「思考力・表現力の育成に取り組んでいる」教職員が94%で達成。 ②「先生や友達の話をよく聞いている」児童は93%で達成。 ③「自分から進んで勉強している」児童88%、保護者60%、教職員83%と達成度に違いがある。 ④「授業がよく分かる」児童85%「先生は分かる授業に取り組んでいる」保護者は82%であり、わずかに目標達成できていない。 ⑤「毎日の宿題をきちんと出している」児童は、95%で大幅に上回って達成。 活動計画の実施状況 ①②ロイロノート等の思考ツールを使って、個人の考えをクラス全体に共有しながら授業を進めた。また、ICTを活用して、個別学習に力を入れ、学力の定着を図った。 ③地域教材を取り入れたり、体験的な活動を多く取り入れたりした。 ④児童の学習において、ノートやワーク、発言内容などを基に実態把握をし、授業改善を図った。 ⑤家庭学習の手引きを配布。タブレット端末を家庭に持ち帰り、宿題配信や確認を行った。	総合評定 （評定） B （所見） どの学年もタブレットを活用して、様々に工夫した授業を行った。個別最適化と協働的な学びの両面からICTを効果的に活用できたのではないかと感じる。 主体的に学ぼうとする場面設定をし、どんな力が身に付いたかを、児童自身が自覚できるような授業をこころがけていきたい。	コロナ禍を明け、すべての行事や授業等を完全に元に戻すのは、大変なのではないかと感じる。教職員の努力で学校をよくしてくれていることは大変ありがたいが、体調等に気を付けて精選した学校運営を行ってほしいと感じている。 読書習慣の定着を図ることはとてもよいことだと感じる。児童にお薦めしたい本もあるため、また紹介したい。保護者の読み聞かせも好評であるため、次年度も続けてほしい。 昔とは違い、パソコンやスマホなどを活用する時代である。我々大人よりも子どもたちの方が堪能である。ICT を活用した授業を今後も引き続き取り入れていただきたい。	○朝の活動を活用した、基礎基本のさらなる定着と個に応じた効果的な個別指導の工夫に努める。 ○読書習慣の定着を図るため、週一回全校一斉朝読書の日を設ける。 ○それぞれの学年が実践している内容を共有する場を設ける。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、積極的な授業研究会を取り入れる。 ○ＩＣＴを活用して個別最適化と協働的な学びについて研修を深める。 ○家庭学習の手引きや発達段階に応じた自主学習の手引き等を元に家庭との連携を図る。
豊かな心 「やさしく（徳）」	①あいさつとていねいな言葉づかい ②人権感覚の育成 ③自尊感情の育成 ④だれとでも仲よく ⑤善悪の判断 ⑥いじめの根絶 〔人権教育推進部会〕 〔生徒指導部会〕	評価指標 ①気持ちのよい挨拶ができるが85%以上 ②学校は人権の大切さについてしっかり教えているが85%以上 ③自分のことが好きであるが85%以上 ④友達と仲良くしているが90%以上 ⑤先生に言われなくてもきまりを守ることができるが85%以上 ⑥いじめもなく仲良く生活できているが80%以上。学校はいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいるが80%以上 活動計画 ①挨拶運動や挨拶週間の設定と常時指導の徹底。 ②全教職員が人権意識を高め、基本的人権を尊重しながら､人権教育を推進するために、研修体制を確立し、指導力の向上を図る。 ③児童のよさや可能性を認め、賞賛と激励により自信と意欲をもたせる。 ④道徳科（人権教育）の授業力向上を図る。また、いじめ　アンケートを年２回行う。	評価指数の達成度 ①「子どもたちは、気持ちのよい挨拶をしている」保護者79%、児童91%で達成状況に違いがある。 ②「学校は人権の大切さについてしっかり教えている」保護者86%「やさしく思いやりの態度が育っている」保護者93%で達成。 ③「自分のことが好きである」児童85%「自分にはよいところが有ると思う」児童91%で、目標達成。 ④「友達と仲良くしている。」児童95%で達成。 ⑤「先生に言われなくてもきまりを守ることができる」児童82%で達成できていない。 ⑥「いじめもなく仲良く生活できている」保護者89%「学校はいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」保護者82%で目標達成。 活動計画の実施状況 ①児童会の挨拶運動や常時指導を徹底した。 ②ブロック人権に向けて､教職員の人権意識を高めたり、豊かな体験活動や研究授業等により児童の人権意識を高めたりすることができた。また、人権標語を考え、参観時に提示し、家庭への啓発も行った。 ③帰りの会でのよいところみつけをするなど、達成感・充実感を得られる活動の工夫により、自尊感情を高めることができた。 ④いじめアンケートを年２回行い、児童への聞き取り等によりいじめの早期発見・早期解決につながった。	（評定） B （所見） ブロック人権に向けて取り組んできたことが、児童の自己肯定感を高めることに繋がったり、友だちを思いやる気持ちに繋がったりしたことはとてもよかったと感じる。授業だけでなく、朝の会や帰りの会で友だちのよいところを見つけることは大変効果的あると感じる。このような取組を地域や保護者に発信していく必要があるのではないか。	これだけの大勢の児童がいれば、いろいろなことが起きて当たり前である。良い子ばかりではなく、問題を起こす子どもがいても当然だし、そのような多用なタイプの子どもがいることで、社会勉強に繋がると感じる。その中で物事の良し悪しを一人一人が身に付け、自分自身を磨いてほしい。 また、地域の行事で子どもたちと触れ合うことは大変楽しみである。次年度も地域と学校が連携しながら、子どもたちのために様々な行事ができればありがたい。 文化的な行事の一つとして、音楽会のようなものを入れたらどうか。県警音楽隊との関係もあるため、協力したい。オープンスクール等で地域や保護者にも参観してもらえるとなお良いと思う。	○教職員自らが率先して気持ちの良い挨拶を心がけるとともに、全教職員の共通理解のもと、継続的な指導をする。 ○正しい言葉遣いの指導の徹底を図る。 ○きまりを守る意義を説明し、児童が納得して守れるように指導を行う。 ○ポジティブ行動支援（ＰＢＳ）の導入を行う。 ○教師と児童及び児童同士、教師と保護者のよりよい関係づくりに努め、いじめの早期発見早期解決を図る。 ○人権や道徳の学習の内容を学年だより等で発信する。
健やかな体 「たくましく（体）」	①早寝・早起き・朝ご飯 ②外で元気に遊ぶ ③責任をもってやり遂げる ④ボランティア活動の推進 ⑤根気強さの育成 〔食育推進委員会〕 〔保健指導部会〕	評価指標 ①早寝・早起きの習慣が付いているが85%以上。朝ご飯を食べているが85%以上 ②外で元気に遊んでいるが85%以上 ③④⑤学校を美しくしようとそうじをがんばっているが85%以上 活動計画 ①バランスのとれた朝ご飯の推進 睡眠教育の推進 ②外遊びの奨励と効果的な場の工夫による運動量の確保	評価指数の達成度 ①「早寝・早起きができている」保護者72%児童75%は目標達成していないが、昨年度より数値が上がっている。また、「朝ご飯を食べている」児童92%とで、これは目標達成している。 ②「休み時間外で遊んでいる」児童79%「元気いっぱい運動に取り組んでいる」保護者93%「外遊びを奨励する」教職員100%と達成意識に差がある。 ③④⑤学校を美しくしようとそうじをがんばっているが94%で目標達成。 活動計画の実施状況 ①「食育タイム」やパワーアップ作戦の授業を通して、食育の推進を行った。生活習慣アンケートや、保健室で個別の健康教室も大変有効だった。 ②体育委員会の企画やとみだっこタイムで異年齢が一緒に外遊びをしたことが大変効果的であった。	（評定） A （所見） 児童が企画した内容で外遊びが奨励されたことは大変素晴らしい取り組みであったと感じる。教員も児童と一緒に遊ぶ姿が多く見られた。 全体的にどの数値も昨年度より高かった。	小学校の中で、縦の関係性ができていることが素晴らしい。自然と上下関係等も学ぶことができる。 また、運動をすることで様々な感覚を刺激することができる。少しのけがぐらいは気にせずにたくましく育ってほしいと願っている。 地域の安全面については、何か心配なことがあればいつでも相談に応じたい。警察等とも連携して安全を守っていく。	○学年だよりやほけんだより等を活用し、全校で積極的に指導を行う。 ○スマホ利用についての安全教室を全校児童対象で行う。 ○体育の授業と連動し、外遊びの奨励をする。（走る楽しさを味わわせるなど） ○落ち葉掃きを６年生だけでなく、全校児童で行う。

「評定」の基準　　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：おおむね達成できた　　Ｃ：達成できなかった